

件名	第19回 筑西市学校の在り方検討委員会 について		
日時	令和5年6月22日(木) 午後6時30分～7時35分	場所	スピカ6階 コミュニティプラザ
相手方	筑西市学校の在り方検討委員会委員 (欠席4名) オブザーバー(財務部):松岡部長、吉水次長、 坂谷次長兼管財課長、大山補佐、小野塚係長	出席者 (対応者)	小室教育長、鈴木教育部長、島村次長、 池田次長、根本学務課長、木村参事兼 指導課長、市塚次長兼義務教育学校整備 課長及び課員(市村、大畑、大木、 齋藤、長尾、山田)
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 爲我井委員長</p> <p>3. 新規委員の紹介及び副委員長の指名 副委員長:櫻井 千洋 委員(筑西市立下館中学校長)</p> <p>4. 報告 (1) 前回の振り返りについて (2) 諮問事項に対する意見について (3) 市の検討状況等について ⇒ 質疑なし</p> <p>5. 協議 (1) 答申の方向性について ○今後の義務教育学校整備スケジュールについて ・明野の義務教育学校整備時のスケジュールだと本工事は3年間だが、2校目以降のスケジュールでは、本工事が2年間になっている。理由を教えてください。 ⇒明野の義務教育学校整備時は、令和3年9月に議会議決があり、そこから令和5年の12月までの27か月で完成する予定。これは外構工事等も含めているものなので、2年間(24か月)でも可能ではないかということで設定した。また、建築後80年を迎えてしまう令和34年までに全ての整備を完了させるため、逆算して設定したスケジュールでもある。</p> <p>・市の検討状況の説明の中で、協和の優先度が高いとなっているが、これをもって、協和地区でこの整備スケジュールのとおり動いていく、決定するというでいいのか。 ⇒説明でお示しした優先度については、あくまで数値的な指標で、数値化した方が委員の皆様判断していただきやすいということでお示したものだ。そのうえでご判断いただきたい。</p> <p>・アンケート結果の数値をみても、協和は関心が高い結果が出ている。例えばこの場で地区が決定したとして、合意形成とか、あと敷地をどうするかとか、施設一体型にするとか、そういうことはこれからということでもいいのか。 ⇒スケジュールを見ていただくと、令和5年度が次の地区の合意形成となっている。アンケートの結果では、義務教育学校の設置も、小学校統合の意見もある。保護者、学校関係者、地域の皆様方に説明をさせていただいて、どういった方向性で統合するのか、意見をとりまとめさせていただきたいと考えている。そこで方向性が決まったうえで、個別具体的に検討いく組織として、準備委員会等を設置していきたいと考えている。 ⇒補足として、合意形成の進め方として、関係組織の位置づけについて説明させていただく。市から「学校の在り方検討委員会」に諮問を行い、検討委員会で次に検討すべき地区はどこにしたらいかが等の今後の方向性についての答申をいただき、その答申の内容を受けて、</p>			

市は、該当の地区の保護者や地域等の関係者の皆様を集めた地区協議会等を立ち上げ、地区で検討を進めていただくようになる。

○小小統合の検討について

- ・小小統合の基本的な考え方について伺いたい。河間小も児童数が少なくなっているが、中小学校と統合したところで、1学年1クラスにしかない。それではあまり状況は変わらない。統合については、お金も時間もかかるし、場所の選定の問題もあると思う。児童数の減少が著しい学校はどこと統合するべきなのか、その統合が適切なのか、またその先に義務教育学校設置を見据えたものであるのか、いろいろ問題があると思う。

⇒小中一貫教育推進の基本方針では、小中一貫教育を積極的に推進し、すべての中学校区で施設一体型の義務教育学校の設置を目指す位置付けられている。

急速な児童数の減少があれば、将来的には義務教育学校の設置を目指すとしても、経過的な措置として小小統合の検討も進めなければいけないと考えている。

また、小小統合についても、義務教育学校設置と同様に地域の方々の合意がないと進められない。どの学校と統合するべきかなどは、状況に応じて、地域で話し合ってもらいたい必要があるのではないかと考えている。

- ・市が検討した今後の義務教育学校整備スケジュールについて承認し、学校の状況によっては小小統合という段階を踏むことを検討する、という方向性としてよいか。(委員長)

⇒拍手(承認)

(2) その他

- ・次回の検討委員会について

⇒9月頃開催を予定

6. 閉会

以上